

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600116	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	株式会社 エイジサービス		
事業所名	グループホーム いずみ別荘2		
所在地	(245-0016) 横浜市泉区和泉町4888-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年8月5日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ過にあっても、今までと変わらずマスクをして毎日散歩にお連れしています。日の光を浴び、外気に触れ、四季折々の植物やお花を鑑賞することで四季を感じ気分転換にもなるとても有意義な時間と考えています。コロナ過で外出イベント等の制限がある中、少しでも楽しんでいただけるよう、毎月の行事担当を決め、毎月イベントを行うよう取り組んでおります。食事に関しては、栄養士の作成した献立にて提供しておりますが、食事のリクエスト等ある時は気軽に対応できるよう努めております。感染症対策について、6/8にご入居者、希望職員共に2回のコロナワクチン接種を終えております。ワクチン接種後も毎月一度は全職員対象PCR検査を行い、「周りはどうであれ、ホーム内は安全な場所でなければ」と職員一同感染対策に取り組んでおります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年9月28日	評価機関 評価決定日	令和3年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄いずみ野線「いずみ中央」駅から徒歩18分、またはバスで「池ノ上」バス停下車、徒歩4分の環状4号線沿いに位置しています。広い敷地の中の2階建て、2ユニットのグループホームです。周囲には幼稚園、公園、そして畑や果樹園があります。

<優れている点>

敷地の中には、菜園や花壇があり利用者、職員で花植えや野菜作りをし、収穫を楽しんでいます。また近隣の果樹園でミカン狩りなどで、事業所理念にある「地域資源をいかしながら笑顔のホーム作り」を実践しています。現在はコロナ感染症予防に配慮しながら、毎日少人数ごとで散歩し、四季を感じています。近隣の人と挨拶を交わしたり、時には畑の野菜を頂いたり地域の人とのふれ合いを大切にしています。休憩時間に記録を書く職員が多かったことから休憩時間10分前に記録記入の時間を設けています。完全な休憩時間の確保が疲労感をやストレスを無くし、良いケアにつながるよう職場環境を整備しています。

<工夫している点>

事業所内でのイベントはすべてユニットごとで実施しています。夏祭りには皆で浴衣を着て、太鼓のリズムに乗って盆踊りに興じ、盛り上がりました。コロナ禍で外食や外でのイベントができなくなり、職員それぞれがアイデアを持ち寄って、施設内でのイベントの充実を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム いずみ別荘2
ユニット名	つる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に根ざした施設の中で、入居者、家族、職員が満足できるよう「理念」を皆の見えるところに掲示し、共有、サービス提供をしている。	事業所理念は職員の好きな言葉や文章のアンケートをもとに作成しています。理念の「地域資源をいかしながら笑顔で…」の通り、毎年近くの果樹園でミカン狩りを楽しむなど、落ち着いた環境を背景に笑顔で過ごせるよう支援しています。事務所や相談室に掲げ共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。コロナ過になる前は地域のお祭りに参加したり、行事ごとには積極的に参加していたが、コロナ過の現在、散歩時に挨拶をしたり、季節の花や野菜をいただくこともあります。	金子山自治会に加入し、回覧板で地域の情報の把握や地域活動に参加しています。コロナ禍以前は自治会会長や近隣の住民が事業所の避難訓練に参加しています。非常用の発電機付きライトを支給されるなど自治会とは良い協力関係にあります。	コロナ終息後は事業所を開放して「認知症講習」や「認知症サポーター養成講座」を開くなど地域に貢献し、つながりをより深めることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ過の今、近隣に散歩に行き、地域の方と触れ合う機会を維持し、会話等通じて、認知症への理解を深めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ過の為、書面にて行っています。事業所からの報告、書面を送った方からの意見、要望を頂いた際は、真摯に受け止め、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいます。	書面による運営推進会議を隔月実施しています。家族、自治会会長、ケアプラザ、協力クリニックに活動状況報告書を送付し、意見・要望を聞き、ファックスやメールでやりとりしています。評価・意見・要望に対しての事業所の考えや取組を開催報告書に記載しています	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	入居時、入居後のトラブルは区の担当者にご相談したりしています。	運営推進会議での活動報告書を地域ケアプラザに送り、意見を聞いたり情報の共有をしています。「お知らせ」を見て地域包括支援センターの「つるし雛」見学に行っています。入居時のトラブルを区の担当者に相談し、相互協力して困難事例にも対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	言葉の拘束はスタッフ自身自覚なく行っていることが多い為、正しい理解、職員間での相互確認等行うようにしています。身体拘束について具体的な行為、正しい理解を定期的に確認するよう努めています。	玄関、階段に続くドアは施錠しています。コロナ禍で職員も1・2階の行き来はしていない状況です。「外に出たい」との要望があれば職員が同行して気分転換を図っています。「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」やユニット会議の中で何が拘束にあたるかを話し合っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	目に見える暴力だけではなく、必要な介助、言葉による暴力等、正しい行為、理解を常に持ち続けられるよう定期的に勉強会を行うよう努めています。	高齢者虐待防止に関する外部研修に参加しています。参加した職員は学んだことをレポートにまとめ、ユニット会議で発表し、全職員で共有しています。職員に不適切な対応があった場合は管理者、ケアマネジャー、ユニットリーダーがその場で指導しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	あまり携わることはないが、機会がある時は職員にも関わらせるよう努めている。今後は研修や勉強会の機会を増やしていけるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間をとり、不安や疑問がないよう重度化や看取り、医療体制、緊急時の対応等を丁寧に詳しく説明するよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員からは意見箱を設置し、意見や要望を匿名で伝えられる機会を設けている。家族等へは運営推進会議や外部評価、電話による問い合わせ等を通じ把握、改善するよう努めています。	ケアプランを作成する際やオンライン面会、運営推進会議などで家族の意見や意向を聞いています。利用者に対して白髪染めの要望や、かつてピアノを弾いていたので電子ピアノを弾かせてあげてほしいなどの要望があり、支援につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居者、家族、職員の為になるような気づきアイデアなど随時受け付けている。ユニット会議にて皆で話し合える機会も作っている。	職員、家族に向けて玄関脇に意見箱を設置しています。管理者はユニット会議で職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。休憩時間に記録を書く職員が多いとの声で、休憩10分前に記録を書く時間を設け、ゆっくり休憩できるように改善しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人間関係を把握し、フロア移動や時間帯の調整を行い、職場でのストレスが少しでもないよう取り組んでいる。	法人の代表者は度々事業所を訪れて利用者や職員とふれ合い、現場職員の努力や勤務状況を把握しています。管理者は職員の間関係や疲労を把握し、ユニット異動や完全な休憩時間の確保を試み、働きやすい環境作りに努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得支援、研修や勉強会の機会を作り、向上心を持って働けるよう努め、資格のない新人入社の際は、一か月程度の研修期間を設け、認知症ケアの基礎知識や対応を学ぶ機会を作っている。	職員は「ウィリング横浜」の研修情報や研修予定表の掲示を見て、受けたい講座に参加しています。外部研修を受講した職員は、会議や勉強会で研修内容を発表し、全員で共有しています。また、管理者からのすすめで外部研修に参加する場合があります。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在はコロナ過の為控えているが、交換研修や外部勉強会等、機会を設けスキル向上やサービス向上に繋がるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談にて以前の生活状況を把握し、今後本人と家族が不安に思うこと、希望する生活スタイル等をお聞きし、その情報を元にプランを立てるようにしています。気軽に不安や不満を言ってもらえるよう、信頼関係を築けるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談にて以前の生活状況、不安等を把握し、希望する生活スタイルになにが必要なのか等、事前に話し合うよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談にて以前の生活状況、不安等を把握し、サービスを開始する段階で希望する生活スタイルになにが必要なのか、事前に見極めるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々の性格や特徴などをスタッフ間で共有し、それぞれのスタイルを尊重し、共に支え合える環境になるよう取り組んでいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日ごろの行動や言動に注意を払い、スタッフ間で共有し、ご家族へ経過報告等しながら確認し合い、ご家族と一緒に改善策や方法を考えるよう取り組んでいる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や電話があったらそのご本人に繋ぎ、継続的な交流ができるよう支援しています。	入居時、本人・家族から交友関係や馴染みの場所を聞いています。コロナ禍前は知人や家族が気軽に訪れて、一緒にお茶や食事をしています。今はオンラインでの面会、電話の取り次ぎや手紙などで関係継続を支援しています。年賀状作りは利用者にとって新鮮で好評でした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は人間関係を把握、共有し、散歩やレクを通じ利用者同士、楽しく過ごす機会を設け、よりよい関係性が築けるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後でもご本人やご家族が来荘されたら、これまでと変わらず相談や支援できることは行うよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や様子から思いを把握し、申し送りやユニット会議等で話し合い、統一した支援ができるよう努めています。	入居時に各職員が利用者との会話から「思いやりシート」を作成し、対応の参考にしています。日々の会話や散歩の最中、入浴時にふと出た言葉を拾って利用者の思いを把握しています。ユニット会議や申し送りなどで職員間の情報共有をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人からお話を聞き、出来る範囲で馴染みの暮らし方ができるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りやユニット会議にて細かい情報交換を行い、職員全員で共有し、現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常の会話の中で不満や願い、希望を言っただけの関係性を築き、言っただけは職員間で共有し、ユニット会議等で話あう機会を設けている。	入居時に利用者や家族の希望を聞き取り、ケアプランを作成します。日々の業務日誌を活用し利用者の情報を職員間で共有しています。ユニット会議では利用者の要望や様子を確認し、家族の要望や医師のアドバイスを参考に、3ヶ月～6ヶ月ごとに見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の個人記録や朝、夕の申し送りで情報を共有。月に一度のユニット会議では、議事録や申し送りノートにて共有し、フロアチームとして統一したサービスができるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部受診は基本ご家族に対応していただいておりますが、難しかったり送迎が必要な時は施設で対応しています。衣類等の日用品購入もご家族承知の元、施設で購入したりと、その時々に応じ対応するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ過にて、地域のイベント等への参加は自粛させていただいておりますが、近隣散歩時などでの挨拶や会話にて地域の方との交流が途切れないよう努めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の訪問診療、毎週1回の訪問看護は基本とし、ご本人、ご家族が希望する病院や適切な治療を受けられるよう支援しています。	かかりつけ医の選択は利用者や家族の意向に任せています。協力医の内科の訪問診療は月に2回あります。歯科の検診は半年に1回行っており、状態に応じて月に1回訪問診療を受けています。外来受診は家族の対応ですが、現在はコロナ禍のため職員が病院まで同行しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週来られる訪問看護職員、施設担当クリニックの看護職員と情報に漏れないよう努めています。日々の変化や気づきがあればその都度情報共有できるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、スムーズな治療が受けられるよう、ホームでの様子等の情報提供は詳細に伝えるよう心掛け、回復状況や状態も常にわかるよう連絡を行ったり取り組んでいます。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、医療と連携し、状態の変化があれば報告するよう努め、ご本人、ご家族が安心して最後を迎えられるよう支援しています。	契約時に重度化した場合について利用者と家族に説明しており、看取りに関する同意書を交わしています。緊急時には医師と24時間連絡ができる体制をとっています。重度化・看取りに関する研修を行っており、利用者・家族の意向に沿えるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	現在はコロナ過の為できていませんが、消防署協力の元、救命救急や応急処置等の研修を行っています。そこから学んだことをマニュアル化するよう取り組んでいます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在はコロナ過の為自粛した避難訓練を行っていますが、本来は消防署+近隣の方々+自治会の方々に参加してもらい、避難訓練を行っています。	入居者と職員が参加する夜間を想定した避難訓練を行っています。コロナ禍以前は自治会長や近隣の住民の参加がありました。今年度も消防署員が立ち会う訓練を予定しています。災害時の備蓄として3日分の食料品やリネン類の備えがあります。	コロナが落ち着いたら地域の防災訓練へ参加し、地域との協力体制を築くことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の気持ちを考え、言葉かけや対応に気を配り、職員間で相互確認しながら支援するよう努めています。	人生の先輩と接する気持ちを持つよう心がけています。トイレの誘導などは周りへの配慮をし、さりげなく声掛けを行っています。ユニット会議などでコミュニケーション（言い方、目線、動作）について職員間で確認を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示が困難な方にも表情や反応を注意深く観察し、少しでも自己決定できるよう支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の基本的な流れはあるものの、一人ひとりのペースを大切にし、無理のない生活が送れるよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の衣服や朝の着替えを本人に選んでもらったり、化粧水や整髪剤等、こだわりや好みの物が使い続けられるよう支援しています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	副食の盛り付けや食器洗い、食器拭き等、ご利用者と一緒に行うよう取り組んでいます。	日々の食事は業者から栄養管理された材料と献立を利用し、職員が調理を行っています。簡単な調理や配膳などを利用者が行い互助の関係を大切にしています。お正月にはおせちの盛り付け、夏祭りのイベントでは流しそうめんなど食欲のわく工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と摂取量を把握し、食事量が減っている方等は個別に栄養補助食品等をお出しするようにしています。それぞれの好みや食べ方を把握し、刻みや一口サイズ等にし提供するよう取り組んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立の方は見守り、介助が必要な方は口腔ガーゼやスポンジを使用したりし清潔が保たれるよう支援しています。全介助するのではなく、できることはやっていただき、ADLを向上できるよう努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご自分で行けない方は、表情や行動から予測し、さりげない声掛けにて伺い、トイレであればさりげなく誘導するよう心掛けています。自立は難しい方でも、下衣を下ろしたり、流したりとできること、無理なことを見極め支援しています。	1フロアに3つのトイレがあり、うち1つは車いすが入る広さがあります。チェック表で排泄パターンを把握し、定期的に誘導して全介助にならないようトイレでの排泄を支援しています。表情や動作を観察して、さりげなく誘導します。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	十分な水分量を接種できるよう、別紙にて水分表を作成し、職員全体で把握できるよう取り組んでいます。毎日の散歩や体操で体を動かすようにし、水分量が少ない方には、好みの物や声掛け等で促すよう努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時の更衣を嫌がる方には、無理に行うことなく、時間や職員を替え声掛けしたり、日を変えたりし、気持ちを尊重した支援を大事にしています。	脱衣所にトイレが併設されています。入浴剤を入れるなど、リラックスできる環境を作っています。介助の必要な利用者には2人体制で入浴支援を行っています。入浴を嫌がる利用者には介助の職員を変える、時間や日にちを変えるなどして対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう取り組んでいます。眠剤を服用されている方は日中、夜間の状況や体調を把握しクリニックに報告し、調整するよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋ファイルを作り、効能など職員全員確認できるよう取り組んでいる。新しい薬が処方された際は、薬剤師、クリニックと情報を連携し、対応するよう取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	これまでの生活での楽しみや趣味等把握し、それぞれにあう支援をするよう心掛けています。毎日の散歩では「いい気分転換になったわ」と言ってもらっています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過の為、イベントでの外出や外食は控えています。毎日の散歩では、その日の調子によって歩く長さを変えたり、車椅子対応の方もお連れし、一日一回外気に触れ風を感じてもらえるよう支援しています。	毎日の散歩を日課にしています。近隣のミカン畑では毎年ミカン狩りを行っています。6月には中田中央公園へ車窓からアジサイのお花見をしました。コロナ禍で自粛中ですが、以前は動物園や、ファミリーレストラン、回転寿司へ行き食事を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個別の支払いは基本的にホームで立替をして支払っています。ご本人、ご家族の希望があれば個々に応じ対応させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人への電話はご本人に代わりお話ししていただいています。受話器を持つことが困難な方は職員が持つよう支援しています。携帯電話を持っている方もおられ、自由に電話をかけられる環境であるよう努めています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	皆が集まるリビングには、皆で季節を感じられるよう皆で作った飾りや絵等を飾っています。ホーム内環境は、清掃員にお願いし、ワックス掛け、窓ふき、トイレ掃除等定期的に行い、清潔を維持できるよう努めています。	リビングは天井が高く、南向きの大きな窓があり、とても明るくなっています。廊下は車いすが2台すれ違える広さがあり、フロアの中央に洗面台が2つあります。定期的に清掃員がワックスがけやトイレ掃除をして、衛生面に配慮しています。壁面には利用者が作成した季節の飾りを飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆と話したいときはリビングにて、ゆっくりしたいときはソファにて、一人になりたいときは自居室にて、それぞれのペースに合わせられるよう配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が使い慣れたもの、馴染みの物、大切な物等を持ち込んでいただき、少しでも安心感、思い出に浸れるよう配慮しています。	居室には照明、エアコン、カーテン、ベッドが備え付けられています。火気や刃物は持ち込めませんが、利用者の使い慣れたもので生活できるようにしています。絵画や観葉植物など趣味のものを置いています。利用者は自身でモップ掛けなどの掃除もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できること、わかることを職員全体で周知し、個々に応じケアの仕方、お願い等を変えています。一つの声掛けで混乱やストレスにならないよう留意し、ケアに努めています。		

事業所名	グループホーム いずみ別荘2
ユニット名	かめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	当施設の理念は職員全体で作成し、目のつく所に提示し意識しながらケアにあたっていますが、定期的に認識の確認は必要だと思います。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、行事参加は控えている状況ですが、日々の散歩を通じ近隣の方との交流は行えていると思います。季節の作物の差し入れもいただけたります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設や認知症への理解を含め、見学は随時受け付けています。説明や相談などの対応を気軽に行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、書面開催という形で行っております。様々な分野の方、地域の方、ご家族などに送り、見直す部分は改善に向け話し合うよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナ禍の為、事務的な関わりのみになってしまい、ケアの詳細な現状など話す機会は少ないが、少しずつ関わり合いを増やし、協力関係を築いていけたらと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施錠は拘束に値することは職員全員認識はしていますが、踊り場に通じるドアは階段などの危険を考え、施錠しているのが現状です。ご入居者の行動を妨げないよう、皆で話し合いを重ね、よりよいケアを考えていきたいと思えます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に虐待に関する研修を職員に参加してもらい、話し合いの中で、日々のケアを振り返り見直せる機会を作るようにし、虐待に関しての理解を深めるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	コロナ禍の為、研修から学んだ知識を全職員に反映できる機会が足りない為、今後は積極的に研修に参加し、自ホームに反映できるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前、契約後の説明の際は、一つ一つ理解を得ながら説明するよう努めています。特に自己負担分や看取りについての対応は、特にわかりやすく説明するよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者の日々の言動などから、思いを汲み取るよう心掛けケアを行っています。コロナ禍の為、面会は控えていただいているが、オンライン面会や電話を通じて、ご意見ご要望を伺い、日々の運営に反映できるよう務めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のユニット会議や個別で意見や提案を聞くよう努めています。場合によっては本部を通し変更することもある為、反映まで時間がかかることもあるが、反映していけるよう努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員のユニット異動を行い、個々のスキルアップやチームケアの向上、勤務状況を把握し希望休や時間が取りやすい環境等、よりよい職場環境になるよう考えています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得支援、職員各々が広く研修に参加できるよう、研修案内を皆に確認してもらうよう努めています。研修に行った職員がレポートにし、ユニット会議にて発表してもらい、ホーム全体で共有できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ過の為自粛していますが、本来は交換研修、他事業所との交流や勉強会等に積極的に参加していき、グループホーム全体の質の向上に取り組んでいきたいと思ひます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話す機会を多く作るよう心掛け、表情や言動から苦しみや不安を汲み取り、職員間で共有し、安心して生活が送れ、職員を信じてもらえるよう、信頼関係を築いていくよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居される前の生活歴等を伺い、不安や要望を聞き入れ、ホームとしてどう対応していくか等話し合うよう努めています。ご家族からの意見を頂いた際には、真摯に受け止め、改善するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の意向を尊重し、どのようなサービスを求めているか確認し、皆で話し合い必要な支援を行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の不安や要望を知り、職員間で共有し、共に支え合える信頼関係を築いていくよう努めています。ご利用者の前に人生の先輩であることを自覚し、学ばせていただくという姿勢で接するよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人にとって一番大切なものは、ご家族との絆だと思います。ご入居者への満足いくケアをするうえでご家族の存在は欠かせず、職員とご家族と手を取り合い、ご入居者の幸せを考えるよう取り組んでいます。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前は知人と外出外食、ホーム内に招いたり、対面で継続的な交流ができるよう支援していたのですが、コロナ禍になり、対面での交流を控えさせていただき、電話やビデオ通話、手紙にて関係が途切れないように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係が円滑に進むよう、食席の位置を変えたり、役割をお願いしたりと、それぞれの特性を把握し、楽しく集団生活がおくれるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も築いてきた信頼関係を大切にし、必要に応じて支援やフォローなど、できる範囲で行うよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者、それぞれ希望の暮らし方を把握し、日々の言動からも思いを汲み取り、本人の暮らしやすいスタイルを尊重し、マイペースに生活が送れるよう、皆で話し合いを重ねています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	それぞれのスタイルを尊重し、これまでの生活歴、馴染みの生活環境等を把握し、ご家族からのアドバイスと現在の言動から暮らしやすいスタイルに近づけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご入居者、それぞれの生活リズムを把握し、できることできないことを見極め、その能力を維持向上できるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活を支援するうえで、ご本人、ご家族の希望を取り入れ、職員間で周知し、話し合い、その情報を元に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に日々の状況を記入し、バイタル表には毎日のバイタル、食事量、排泄票には毎日の排泄記録を記入し、職員間でスムーズに共有できるよう努め、それを元に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じ、通院や送迎なども行っています。既存のサービスに捉われないことなく、状況に応じたサービスを心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人の希望や体調に応じて、マッサージや理美容、皮膚科、歯科、眼科などかかりつけ医で対応できないことにも対応し、心身豊かな暮らしができるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医院の他、ご本人、ご家族の希望する医療機関で受診できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	表情や言動から体調の変化を見逃さないよう努め、気になることがあればNsコールし早期対応を心掛けています。週に一度の訪問看護、2週に一度の診察時にスムーズに伝達できるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為、施設職員、ご家族の面会が厳しい状況の中、病院関係者との情報交換を密に行うよう心掛け、治療がスムーズに行え、早期退院になるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期のあり方について、早い段階からご本人、ご家族、担当医、施設職員でムンテラを行えるよう努めています。その際、わかりやすく、疑問がないよう説明することを心掛け、ご本人、ご家族の希望に添えるよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ禍の為、消防署協力の訓練が自粛させていただいており、消防署管理の勉強会はできていませんが、緊急時等の対応はマニュアルがあり、自己判断によるミスを防げるよう努めています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍の為、地域の方を交えない少し控えた避難訓練になっていますが、昼夜を問わず、ご入居者が安全に避難できるよう訓練を行っています。訓練後に皆で話し合い、課題を見つけ、改善していくよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助、介助が必要な時は、音量に気をつけ、さりげない声掛けを心掛けています。表情からもくみ取れるよう、常にご利用者の様子を感じられるよう見守りをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定できる方はその希望に添えるよう心掛け、自己決定が難しい方は、ご家族の意向やこれまでの生活歴、日々の言動から、思いや希望を汲み取り、それを元に皆で話し合い、なるべく添えるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、それぞれのペースや体調に合わせ、無理なく、それぞれのペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人のこだわりやスタイルを把握し、その方らしさを保てるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ過の為、食事場所のご利用者、職員別で食べているが、準備や盛り付け、片付けは積極的にお願いし、「皆で食事を作っている」と感じられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は栄養士の管理の元行っております。それぞれの好みに合わせ提供し、現在の水分摂取量がすぐにわかるよう、表に記入し、すぐに職員間で共有できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご自分でやられる方、声掛けで行う方、介助にて行う方とそれぞれに合わせ、支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご自分で行けない方は、表情や行動から予測し、さりげない声掛けにて伺い、トイレであればさりげなく誘導するよう心掛けています。自立は難しい方でも、下衣を下ろしたり、流したりとできること、無理なことを見極め支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	オリーブオイルを少量入れたり、乳製品を接種したりと個々に応じた対応をしています。便秘の日数に応じ、Drの指示の元、下剤等で対応することもあります。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の希望に合わせた入浴は難しく、ある程度、時間帯や間隔を決めさせて頂いています。その中でなるべく希望を聞くよう努め、個々に応じ、同性介助や二人対応にて支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれのスタイルを尊重し、それぞれのペースで行えるよう支援しています。室温30℃でも寒いと言われる方には、直接当たらないよう風向き等考え、空調の管理をさせていただくこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬のファイルを用意し、職員全員が確認できるようにしています。特に留意しなければならない場合、別紙にて作り、職員全体で周知できるよう努めています。処方薬に変更等あった場合は申し送りやユニット会議にて周知できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事、家事以外のお手伝いと項目を分け、積極的にお手伝いをお願いをさせていただいています。自居室のモップ掛けや毎日の散歩で外出の機会を作り、四季を感じ、少しでも気分転換できるよう努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過になり、イベントや外食等での外出は控えています。毎日マスクをしての近隣散歩にお連れしています。陽の光を浴び、外気に触れ、四季を感じられる散歩はとて有意義な時間と考えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個別の支払いは基本的にホームで立替をして支払っています。ご本人、ご家族の希望があれば個々に応じ対応させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人への電話はご本人に代わりお話ししていただいています。受話器を持つことが困難な方は職員が持つよう支援しています。携帯電話を持っている方もおられ、自由に電話をかけられる環境であるよう努めています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	皆が集まるリビングには、皆で季節を感じられるよう皆で作った飾りや絵等を飾っています。ホーム内環境は、清掃員にお願いし、ワックス掛け、窓ふき、トイレ掃除等定期的に行い、清潔を維持できるよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆と話したいときはリビングにて、ゆっくりしたいときはソファにて、一人になりたいときは自居室にて、それぞれのペースに合わせられるよう配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が使い慣れたもの、馴染みの物、大切な物等を持ち込んでいただき、少しでも安心感、思い出に浸れるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できること、わかることを職員全体で周知し、個々に応じケアの仕方、お願い等を変えています。一つの声掛けで混乱やストレスにならないよう留意し、ケアに努めています。		

2021年度

事業所名 グループホーム いずみ別荘2

作成日： 令和 3年 11月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ過により利用者と地域との関わり合い、地域主催の行事への参加等が減ってきている。	なかなか対面での関わり合える環境でなくても、地域と密に連携がとれるようになっていく。事業所として地域に貢献していけるようにする。	・運営推進会議や報告書等を通し、事業内容等の情報をより多く発信していく。グループホームとして、地域の方が気軽に立ち寄れる環境を作っていく。	12ヶ月
2	16	コロナ過の為、自粛した形での避難訓練等を行っている為、以前のような満足できる対策がおこなえていない。	消防関係者+地域住民の意見を取り入れた訓練や対策を講じていく。	・訓練等に参加できない状況でも、消防関係者や近隣住民の意見を聞ける環境を作る、自施設の対策等が書面で簡単にわかるよう、わかりやすいマニュアルを作成していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月